

学校だより

さいたま市立いろどり学園小学部・中学部
令和8年10月1日発行

第6号

出会うべき時に

校長 米玉利 優子

後期転入学の児童生徒の皆さん、そして、保護者の皆様、いろどり学園へようこそ！

本日、いろどり学園小学部・中学部に、新たに60名の仲間が加わりました。児童生徒数190名での後期のスタートです。私の好きな言葉の1つに、「人は出会うべき時に 出会うべき場所で 出会うべき人と出会う」という言葉があります。今、こうしていろどり学園で出会えた子どもたち、保護者の皆様、教職員等との出会いを想うと、一人ひとりの尊さを感じるとともに、出会いは奇跡であると痛感します。そして、この出会いが自分自身にとって必要な何かを学ぶ機会であると確信し、感謝の思いが湧き上がってきます。このいろどり学園が、子どもも大人も共に過ごす一人ひとりにとって、ホッとする場、ふっと微笑んでしまう場、ここは私の居場所だと思える場であるようにと心から願い、校長として、人を大切に真摯に努力することをお約束申し上げます。改めまして、後期もどうぞよろしくお願いいたします。

9月15日、16日には、中学部3年生の修学旅行で鎌倉を訪れました。普段はあまり話すことのなかった仲間と一緒に歩き、「どうする？」「こっちに行ってみよう。」と相談したり、自然と声を掛け合ったりする姿や、意見が分かれた時も、お互いの思いを大切にしながら話し合いを重ねている姿をあちらこちらで見かけました。今の子どもは、折り合いをつけることが苦手だと言われる中で、いろどり学園の子どもたちを誇らしく思えたひと時でもありました。由比ヶ浜でのレクで、砂だらけになりながら遊ぶ子どもたちの明るい笑い声が大海原に響き渡ったとき、私は涙を止めることができませんでした。学校に来ることや人と関わることに、様々な思いを抱いていた子どもたちの笑顔が見られたことの尊さは、どんな言葉でも言い表せないものでした。安心できる場所があること、一緒に過ごせる仲間がいること、そして、「やってみよう」と思える機会があること、その一つひとつが子どもの心を動かし、内に秘めた力を引き出していくのだと思います。子どもたちは、私たち大人に大切なことを教えてくれました。それは「子どもは、誰かと比べることで輝くものではない、自分らしくいられる場所で、自分らしい一歩を踏み出した時、自分にしかない輝きを見せるのだ。」ということです。

鎌倉で過ごしたこの時間が、子どもたちの心に残るあたたかな思い出となりますように…これから何かをするときの小さな勇気となりますように…海に向かって両手を広げる子どもたちの背中を見ながら心から祈りました。欠席している仲間たちを想い、海に向かって「おーい！」と叫んでいた子どもたちの姿と、「校長先生、私、いろどり学園に入って良かった！」という言葉を残し、私の横を砂だらけの足が走り抜けたあの瞬間を…私は生涯忘れません。

出会うべき時は、今。出会うべき場所は、このいろどり学園。そして、出会うべき人は、ここで共に学ぶ仲間たち。出会いが心を動かし、経験が子どもの未来を拓くならば、私たちはこの出会いを決して無駄にはしません。その子の色で、その子のままで、そして、その一歩が未来の色になるように。保護者の皆様、地域の皆様には、後期も、変わらぬあたたかいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。